



◆vol. 174

『あえて、非効率 利益が上がり、社員もやめない組織の秘密』

人未知理。(著) ダイヤモンド社(2025年11月)

10年後を見据えて、どこに投資をするべきか？ 効率を追求しながらも、差別化を生み出す「非効率」への投資の重要性を教えてくれる一冊です。

2026. 1
中村淳税理士事務所



book review

【感想】

2008 年、38 歳で事業を承継し、崩壊寸前、年商7億円の状態から年商 100 億円・16 社グループへ導く奇跡的な V 字回復を果たした著者が、苦悩の末に行き着いたのは、「効率ばかりを追い求める経営こそ、実はもっとも非効率」という確信。

AI という超効率化装置により、世の中は「効率」を追求する流れが加速しています。効率の先に一体何が求められていくのか、迷われている方も多いのではないのでしょうか？

AI 時代だからこそ問われる「人の価値」。人が強くなるから、良い技術が生まれ。良い製品が生まれる。良い製品が評価され、収益が生まれ、その利益をまた教育に投じる。こうした“非効率のループ”こそが、企業の本物の強さをつくると説いています。これからの戦略や方向性を考えるうえで示唆を与えてくれる内容です。

【以下引用】

・勝ち残るための方程式はシンプルです。「誰もやっていないことを、真剣にやる」
他社が効率を追うなら、自分は非効率を選ぶ。差別化とは「他がやらないことをやる」
「効率の思考」こそが、未来を奪っていくのです。

・「量と差の法則」 「量が増えれば差が埋まり、やがて価値が一般化していく」
「量」: 市場への普及度や供給のボリューム。「差」: 他社にはない独自性、差別化の要素。
量が増えるということは、それだけ他社が「同じことを始める」きっかけになるということ。市場に類似品や競合が増えれば、最初にあった価値はやがて「当たり前」になっていきます。

・生き残る会社は「差」にこだわる。誰も簡単にはマネできない独自領域で、強みを育てる。

・他社がやりたがらないからこそ、やれば差がつくのが教育投資です。そもそも、多くの経営者が人財育成に本腰を入れられない最大の理由は、「即効性がない」こと。つまり、目に見える成果がすぐに表れないという点にあります。2023 年度の調査では、中小企業の1人あたり年間教育投資額はわずか 3 万 1087 円。アメリカの小規模企業では、1人あたり年間平均約 28 万円。

・会社という人の集団もまた、そこに道徳があるか、品格があるか、誠実さがあるかで評価される時代になる。目に見えない「空気の質」こそが、社会や会社の本質的な競争力になっていく。

・ジョブローテは5年目を目安に行う

ジョブローテこそ、ある意味では「非効率経営」の象徴ともいえる。

ぜひ、教育でお困りのことがありましたら、お声かけいただければ幸いです。